

南信州民俗芸能継承推進委員会会議録

日時：令和元年5月28日（火）10：30～12：00

場所：エス・バードB201 会議室

出席者：別紙のとおり

1 協議事項

協議事項は全て承認された。

2 取組内容・意見等

<飯田市>

保存団体との意見交換会や活動に対して支援を検討していきたい。

<高森町>

高森町では、7月から8月の期間で歴史民俗資料館「時の駅」で、町内の民俗芸能団体の道具や衣裳の展示を行う予定。あわせて小学校・中学校にも希望の団体の展示を行う予定。

また、7月6日（土）には、飯田市美術博物館櫻井学芸員を講師に招き「南信州の歴史」について講演会を行う。

<阿南町>

平成27年に阿南町新野雪祭資産化事業実行委員会を立ち上げ年数回会議を開催している。町として伝統芸能を柱にしたまちづくりを目指している。

<阿智村>

阿智村清内路煙火へ助成金を交付し支援している。

また、昨年度より子ども達の学習プログラムを検討するため、ふるさと学習カリキュラム作成委員会を設置している。この中でも、地域の民俗芸能活用した取組を検討していきたい。

<天龍村>

昨年度より民俗芸能団体への助成金を増額して支援している。平成28年度に天龍村の霜月神楽における記録を制作している。これらを活用し後継者確保へと繋げていきたい。

また、國學院大學で開催する向方のお潔めまつりの上演を支援していく。

<喬木村>

各地区の保存会の活動について公民館報などを活用して周知している。

また、宝くじ助成金を活用し道具などを更新している。地域の歴史や民俗芸能などを整理するため村誌や地域の教科書づくりの検討を始めている。

<大鹿村>

今年度においても元気づくり支援金を活用し、大鹿歌舞伎の保存継承のためのワークショップを開催する。

また、今年度村政130周年を迎え地域の民俗芸能と連携して、11月の記念式典に向け取り組んでいる。

民俗芸能以外の保存活動として、地域や自治会で今日まで大切にしてきた価値のあるモノについて、村で補助していく活動を行っている

<新野雪祭り保存会>

小川先生からいただいた意見をもとに、新野の雪祭りを解説する小冊子を保存会費で作成している。

<坂部の冬まつり>

坂部地区では年間5つの祭事を行っているが、一番大きな行事は坂部の冬まつりである。

今年は、20名程度の地元住民に対し70名程度のカメラマンが観覧し盛大に奉納できた。

また、3名の大学生に準備から片付けまでご支援いただいて大変助かった。

課題としては、女の子が舞う浦安の舞や男の子が舞うはなの舞など、子どもの舞てを集めることに苦勞している。

パートナー企業の皆様にも坂部かけ踊りなどの祭事に関わっていただけるようお願いしていきたい。

<上村霜月祭保存会>

祭りの担い手が少ないため、小学生・中学生や飯田市役所から参加いただいている。

今年の5月より女性の地域おこし協力隊が上村地区に赴任しているため、祭りに関わっていただけると期待している。

<黒田人形保存会>

小学校で社会授業の選択メニューに黒田人形を取り入れてくれているため、民俗芸能に触れる機会があるが、高校生になると民俗芸能から離れてしまうため、継承者不足に不安を感じている。

<和合念仏踊り保存会>

継承の人数が増え保存継承が行えている。多くのイベント等にも参加していきたい。

<飯田市美術博物館>

飯田市美術博物館として、写真を中心とした伊那民俗研修集会を開催予定。

また、國學院大學での天龍村の向方お潔まつりや阿智村清内路煙火を中心とした資産化事業への協力を行っていきたい。常設展示では民俗芸能を紹介するコーナーや記録映像を展示していきたい。あわせて、遠山霜月祭り、人形芝居、南信州の花火の番組をプラネタリウムで上演を行う。

また、リニア中央新幹線の改良に伴い変化することが予想される飯田市上郷飯沼地区を調査し、報告書としてまとめていく。

清内路煙火を参考に沖縄の花火を復元する取組がある。

来年の1月に開催される九州の神楽シンポジウムに上村霜月祭保存会が参加する。

<國學院大學小川教授>

公募型事業である日本博の情報収集を行い、国からの補助活用を検討していきたい。

パートナー企業制度については、全日本郷土芸能協会も非常に高い関心を持っており、全国から注目を浴びている

また、ラジオ局やメディアには民俗芸能に関するコーナーを持ってもらうことや、昼神温泉郷の各旅館では民俗芸能のプロモーションビデオをロビーで上演してもらうことや、食品会社では、包装紙にロゴマークを印刷してもらうなど、パートナー企業の特長や性格を活かした様々な連携を企画していくことが重要。

当協議会の取組は4本柱である。ひとつは民俗芸能を中心とした魅力発信である。地域のお祭りやイベントの案内をポータルサイト等でしっかり発信すること。

ふたつめとしては後継者育成である。どのように子ども達に関心を持ってもらい将来に繋げていくか。他の地域からの移住者の方に関わってもらうのかをしっかりと考えていく。

みつめとして、協議会や継承フォーラム、パートナー企業、応援隊などを活用した連携事業である。祭事を継続するためには、祭りの本体は地元住民が守り、準備や炊事などの周辺の活動を外部の方にサポートしてもらうような、分けられた支援の仕組みを考えていく必要がある。

よつめとして、民俗芸能の文化的な価値付けである。調査により歴史的な内容はまとめられているが、それをどれだけの住民の方が理解しているか。特に民俗芸能に携わっている方が、自分の祭りの文化的な価値を認識することが重要。そうすることにより、より効果的な魅力発信を外部に行えるようになる。

事務局は、魅力発信、後継者育成、連携事業、文化的な価値付けの4本柱について全体像を整理して事業に取り組んでほしい。

<長野県立歴史館笹本館長>

協議会の取組は国をリードする取組である。

南信州地域は県市町村がしっかり連携していることと、飯田市美術館のような研究機関の支援が大きな役割を果たしている。地域の歴史を研究している研究者を継続的に育成することが重要。

また、祭りの意義づけやバックアップ体制をしっかりと確立させるためにも地域の民俗芸能の価値を認識し、文化的価値付けを図っていく。

東北信地方では南信州の民俗芸能について認知している方が少ないため、飯田市美術館の櫻井学芸員に講演いただき情報を発信している。これに似ている活動として、民俗芸能の衣裳を学校に貸与する高森町の取組は非常に評価が高い。安曇野市でも小規模な考古学展示を公民館や市役所、小学校で行っている。高森町でも他の地域で展示し自分たちの衣裳と比較することで、文化的価値を認識することができるようになる。

また、担い手を確保するひとつの手段として、地域おこし協力隊に関わっていただくことも必要。清内路煙火にも地域おこし協力隊が参加し移住している事例もある。

民俗芸能を観覧してもらうためには、観光との連携が欠かせないが、ほんものの民俗芸能を観覧するための環境整備として観覧マナーの確立することが重要。